

## タコの四季

東京海洋大学 海洋生物資源学科  
増殖生態学研究室 准教授 團 重樹

第33時限目となる今回は、私たちの食生活に身近な「タコ」について、東京海洋大学海洋生物資源学科の團准教授にご執筆いただきました。

タコ類の寿命は短く、マダコやイイダコでは約1年間といわれています。また、生涯で繁殖を行うのは1回のみで、雄は雌に精子を渡したのちに、雌は産卵して卵がふ化するまで保護したのちに死亡します。マダコやイイダコは、文字どおり人生の春夏秋冬を1年間で駆け抜けるわけですが、彼らは四季の移り変わりをどのように感じているのでしょうか？

私が研究の対象としているマダコとイイダコについて考えてみると、この2種類のタコでは季節に関する事情が大きく異なります。西日本沿岸では、マダコの繁殖期は春から秋にかけて長期間にわたるのに対し、イイダコの繁殖期は冬だけです。つまり、マダコでは誕生した季節が異なるタコが同時に海に存在するのに対し、イイダコでは同時期（春）に誕生したタコのみしか存在しません。また、春にふ化して冬に産卵するイイダコは、成長するにしたがって春夏秋冬の順番どおりに四季を経験していきます。

ところで、生物には生活するうえで適した温度帯が存在します。この温度帯を大きく外れ、耐えられる限界を超える高温や低温のもとでは死亡してしまいます。瀬戸内海の水温は6～29℃の範囲なので、そこに生息する生物はこの水温範囲に耐えられると考えるのが一般的です。つまり、冬の水温が6℃以下になったり、夏に29℃以上になったりすると生存が危ぶまれるという考え方です。しかし、この考え方はマダコには当てはまりますが、イイダコにはまったく当てはまらないことが分かってきました。水槽内でマダコとイイダコを飼育すると、マダコは冬に海水を温めても死亡しませんが、イイダコは死亡してしまうのです。おそらく、生涯の決まった時期に決まった季節しか経験しないイイダコは、成長段階に合わせて耐えられる水温が変わるのではないかと考えています。同じ海域に住むタコでも、生活史の特徴に応じて四季の感じ方が大きく異なっているのかもしれない。



水槽内で卵を守るイイダコ



ふ化直後のイイダコ